

桐鈴凜々

夢をのせて「とんとん」工事進む

ケアハウス鈴懸 事務局 島村 義彦



第 86 号
平成 24 年 11 月 15 日 発行
発行責任者
社会福祉法人 桐鈴会
理事長 黒岩 秩子
南魚沼市浦佐 5142-1
電話 025-780-4118
FAX 025-777-3731
e-mail
suzukake@rose.ocn.ne.jp
http://www17.ocn.ne.jp/~tourei/

一〇月一日は工房「とんとん」の地鎮祭。心配された天候も何とかもち、安堵安堵。法人役員・職員・入居者、その他に建築関係者を合わせ二〇名ほど参加し（別にすずかけのベランダからも参加あり）、仏式で行いました。儀式を執り行ったのは私どもの評議員で僧籍を持つ榎本宗俊さんです。一般的な神式との違いは私には分かりませんが、自然に厳肅な雰囲気になります。最後に鍬入れを行います。桐鈴会理事長が「鎌」、大和設計

の青木所長が「鍬」、桐生工業の大平副社長が「鋤」を持って土に手を加えます。きつと安全・無事に工事を終えることが出来るでしょう。儀式を眺めながら、「やつとここまで来たか」というのが私の正直な気持ちでした。事務サイドとしてこの事業に関わったのは昨年の暮れのこと。今年の七月二日に国県の補助金の内示をいただき、やつと建設にとりかかることが出来ました。しかし、簡単に着工までいきせん。補助金を受けて行う事業は

桐鈴会の理念

・終のすみかを目指す
・「迷惑をかけ合える関係」を目指す
・高齢者、しょうがいしゃ、子どもたちが
安心して住める地域を創ろう



それなりに県の規則に従った入札事務を行う必要があります。入札自体は南魚沼市に委託することになりましたが、入札を設計と建築等の二回に分ける必要があることが解ってきました。一回の入札に約三週間かかってしまいます。

危惧したのは工期の問題です。



厳かな雰囲気の中で行われた地鎮祭

豪雪地においては雪の降る前に整地や建物の外装等を終えてしまわなければならないのです。そうしないと来年四月一日に事業を開始することができません。経験と知識、能力があれば示前に準備ができたに違いありません。結局、八月の頭に設計会社が決まり、大和設計さんには超特急で実施設計をやっていたいただきました。九月二〇日に建築関係の入札をし、桐生工業、石丸電気、ヤマト設備、カネ中商店の皆さんに私たちの事業に協力していただくことになりました。九月末に着工しましたが、工期が厳しいことになりましたが、私どもは各社さん仕事を前倒しでやっていたでいます。もうひとつ頭を悩ませたのは資金の問題です。前述の補助金が実際に入ってくるのは来年の

五月になってしまいます。その間のいわゆる「つなぎ融資」が必要になります。金融機関と相談し、とても良い条件で借入ができることになりましたが、一方、支払いについて建築各社さんにも無理を言って協力していただくことになりました。

新しく別の補助金を受けることができるといふ喜ばしい話もありました。それは、新潟県産の杉材を使うといただけるもので、幸いにも二種類の補助金を申請することができました。合わせて八百万円を超えます。

今私がこの原稿を書いている相談室からは工事の様子が見えます。建物の基礎のコンクリートがやっと姿を見せました。雨降りです。作業が続けられています。「とんとん」新設事業に関わっていると、実に多くの方々に支えられていることを実感します。桐鈴会の役員・職員はもとより、企画から携わっていただいたボランティア・有志、行政、建築や設計関係、金融機関、街の方々など、実に多くの人たちが私たちの夢を実現するために働いて下さっています。

私の立場では、新潟県障害福祉課地域支援係の山本主事、南魚沼地域振興局林業振興課の勝田主査、南魚沼市福祉課の渡辺計の青木所長、川島さん、羽賀さんにはこの場を借りてお礼申し上げます。私の的外れの質問や無理難題を受け止めてくださり、ありがとうございます。この事業も途上ですし、別の事業もございますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



★「とんとん」上棟式のお知らせ

十一月二七日(火)
午後三時半からの予定
です。

楽しく盛大に、弱小法人らしく温かみのある餅巻きをしたいと思えます。多くの街の方々の参加をお待ちしております。

グルーブホーム ひまわり

「体験発表」より
グルーブホームひまわり

入居者 庭野正夫



「庭野正夫です。

南魚沼市に 来る 前は

十日町市に、住んでいましたが

今は浦佐にあるグルーブホーム

ひまわりにお世話になりながら、

魚野の家うらさに通っています。

ひまわりでは、毎日、食事を朝晩

二回作ってもらって、お風呂も

毎日入ることができ、世話人さん

がとても良い人でよかったです。

二〇歳の頃に父親が亡くな

り、その二年後に母親が亡くな

り、一人暮らしになりました。

母親と同じ糖尿病になって、保

健師さんが栄養指導に来てくれ

ヘルパーさんがおかずをつくっ

てくれ、自分はお飯を炊いて食

事をしていました。仕事はあん

まりしていません。しばらくは

母親が残してくれたお金で生活をしていましたが、その後生活保護を受けるようになりました。福祉の人にお世話になりました。小さなアパートに住んで、川西のなごみの家に通うようになりました。

一人暮らしに慣れてくると結婚話があつて、岩瀬というところに住んでいた人が私と一緒に住んで十日町に引っ越してきただけ、お金をいくらでもよこさないとかそういうことがあつて、しようがないな、じゃあわかれるしかないということになったり：、それと、同じアパートの二階にいた人と金銭問題があつたりして：。結婚問題とか、お金の問題とからんでこれじゃだめだなーということになり、いとこと十日町のおおぞらの樋口さんが話し合つて、六日町に行つてみないかと言われて、グルーブホームひまわりの見学をしました。ひまわりいいなーと思つてそこでお世話になることになりました。

魚野の家うらさでは、きのこのフィルター交換や図面袋のアイロンがけやのりづけ、八色の

森公園の草取りと一生懸命仕事をしています。施設見学に来た方への作業説明をする時もあります。



笑顔も明るくなった庭野さん。



(魚野の家の職員が、庭野さんにインタビューをしてこの文章を作りました。庭野さんのために振り仮名をふって書いていたので、始めのかっこのぶんだけ振り仮名のままにし、そのあとは読みにくいので、振り仮名を取りました。「魚野の家二十周年記念」で、百五十人ぐらいの方に聞いていただきました。)

『庭野さんのこと』 グループホーム「ひまわり」 サービス管理責任者

星野淳子

昨年五月に、庭野さんが十日町から入居されました。布団一式とわずかな衣類。そしてお兄さんの遺骨を持参されました。小柄な体に、背中を小さく丸め、小声でぼそつ、ぼそつと話すが印象的でした。

当初は、インシュリンの自己注射をされていると言う事で、食事の提供と健康を維持することに苦労しました。鈴懸の片桐栄養士にアドバイスをもらったリ、糖尿病の本を購入したりして、食事を作るのですが、なかなか血糖値が安定しません。浦佐萌気園診療所や魚野の家と連絡を取りながら悪戦苦闘しました。体調不良で救急外来を受診したことも度々でした。

現在では、いろいろと試行錯誤した結果、血糖値の数値が安定し、体調も良くなっています。約一年半のひまわりでの生活の中で、庭野さんの人柄も変わってきました。魚野の家への通勤が一人で行けるようになり、しばらく前から六日町の蔦屋へ、毎週末にDVDを借りに行けるようになりました。更にお盆には、十日町の菩提寺へ出かけ、お墓掃除をし、帰りには、お世話になった社協さんにあいさつに行くこともできたのです。十日町福祉課の山我さんや支援センターの樋口さんと、庭野さんの成長ぶりを喜び合っています。身内はたった一人のいとこさ

りだけです。庭野さんには、常々「今まで大変な苦労を重ねてきたのだから、今後の人生は、生活の幅を広げ、色々なことを体験したり、楽しんでください。ささいね！」と話しています。庭野さんも相談支援センターの地域活動へ積極的に参加したり、田町地区のお祭りでは自分からカラオケに挑戦したりと、生活をエンジョイし始めました。とてもうれしいことです。そして魚野の家で、これまでのご自分の体験を発表されました。(前掲「体験発表」)入居当時の姿からは、考えられないことです。理事長が聞いて、とつてもびっくりしていました。ずうつと泣き泣き発表したということですが、

この庭野さんの様子から、障がい者自立支援の各サービス機関や、事業所の連携が大きく役立つたと思います。知的障がいという障がいはありませんが、周囲の支援体制があれば、地域の中で、地域の一員として、安心して、落ち着いた生活を送れると言う事を教えて頂きました。今後の庭野さんの活躍ぶりに、乞うご期待です！

須貝夫妻のこと 桐鈴会理事 広田セツ子



須貝夫妻が引越されると聞いたのはその直前で、びっくりして、お別れのお茶会にかけつけました。ご夫妻は四年前に、桐鈴会のすぐ北隣に新潟から越してこられました。

妻の須貝絹恵さんは、同居の娘さんとも福祉について話しているとのこと、桐鈴会や萌気会の理念についてもよくご存知でした。夫の英助さんは、夢草堂の門の周りに竹で格子を手作りして、朝顔やコスモスを飾ってください、山門は一気にグレイドアップして趣のあるものになりました。

お茶会は夢草堂であったのですが、壁に棟方志功の「釈迦の弟子」の模写絵が飾ってあり

ました。これも須貝英助さんの描かれたものでした。

私は、引越す前に、二人の人生を語ってほしいとお願いしました。聞き手は夢草堂運営委員のメンバーです。あとで絹恵さんが言っておられたのですが、普段無口な英助さんがこんな話をするなんて思わなかったというくらい、英助さんが話をさられていました。「和食の職人一筋に働いてきた」とのこと。絹恵さんがマネージャーとして職人気質の夫君を支えてこられたようです。「新潟駅裏に自分のお店を持って、七時に河岸に行つて、夜一二時まで。お客さんにも評判がよく、予約がたくさん入ったので、仕事が面白く夢中になって働いた」と、仕事の話には目を輝かせておられました。今でこそ、和洋折衷の創作料理とはよく聞かれますが、和食をそれだけで終わらせないで、早くから創作料理を手がけて評判がよかったのでしょうか。どうりで絵も花作りもお上手なわけです。その日は木曜の定例のお茶会があったので、絹恵さんも参加して場所を五階に移してお茶

会のはしご。初対面の入居者とも話に花が咲いたようでした。「お茶会のボランティアというが、もっと気楽に考えていいのですね。楽しいお茶会だった」と言われて本当に嬉しく思いました。

お二人にはお世話になるばかりでした。長岡でも元気に暮らしてください。またお会いしましょう。

○須貝ご夫妻から絵をご寄贈いただきました。夢草堂に飾ってあります。どうぞご覧ください。



新入居者紹介



ケアハウス鈴懸
入居者
種村道子

八月に入居致しました、種村道子でございます。早いものでもう二ヶ月になりました。職員の皆様、先輩の入居の皆様にかとお世話になっております。わからないことや困っている時等、皆様から親切に教えていただきまして、大分慣れてまいりました。

入居者の為に色々な行事が計画されておりますことにも驚きました。施設も環境も良く、入居できたことを本当に良かったと思っております。又、日常の挨拶や、皆様と少しずつでもお話ができてとても嬉しく思っております。

今後とも何かと皆様のお世話になると思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新入職員紹介



鈴懸おはよう
ヘルプ
上村久美子

十一月一日より、鈴懸おはようヘルプに勤めさせていただくことになりました。

こちらに勤めるまで介護職の経験はなく、そんな私が介護職に就こうと志したのは、祖母の介護がきっかけでした。

祖母は昨年九月に二回目の脳梗塞を患い、左半身麻痺の寝たきりになりました。家族で自宅介護をしながらお世話になりましたのが、鈴懸おはようヘルプでした。ヘルパーの皆様には、不安だらけだった祖母の介護について、丁寧にアドバイスを頂くこともあり、お仕事を拝見して私も社会に貢献したいと思うようになりました。祖母は今年二月末に永眠致しましたが、もっと祖母の為に何か出来たのではないかと、と今でも悔いが残っております。

縁あっておはようヘルプに勤めることができ、心身共に引き締めて笑顔で頑張っていたと思います。何かとご迷惑をお掛けするかもしれませんが、何卒よろしくお願い致します。

役員雑感



友の最期と私の最期

桐鈴会評議員 清水春代

最も親しかった友人、深田久枝さんが、終の棲家と決めて入った鈴懸で亡くなって四年。

ご主人は水上で、鍼、マッサージをしていたが、どういう理由か病院前の何も無い原っぱに看板を揚げた。まだ新幹線が工事中だったから、ずいぶん昔の話である。

家がほとんど出来上がった時、先妻の方が家を見に来て浦佐の駅で倒れ、そのまま帰らぬ人となった。深田さんは全盲の身で、暫く不自由な一人暮らしをしていた。多分私が患者一号だったと思う。そして久枝さんが後添えとして突然浦佐の人と

なった。彼女が浦佐に来た頃は、原っぱの中に二軒しか家が無かった。

何も知らない所ですいぶん心細い思いをしたと思う。すぐに我が家のお客様になってくれた。ちよつとステキなスタイルで、フワンフワンと踊るような足取りで歩いていた。お花の教室をやりたいということで、私は生徒募集を買ってでた。早速友人数人を誘って生徒になった。今思うと先生より若い生徒が、先生より大きな態度で習っていたような気がする。先生に浦佐の方言を教えたり、お花はそっちのけで、楽しい笑いいっぱいの教室だった。

他にもいろんな思い出がある。友人四、五人で八海山の里宮の裏の、湿っぽい杉林に木の芽取りに行った。およそ山菜取りの感じじゃない素敵なファッションで、いつものようにフワンフワン歩いていた。私達が手取り足取り教えたあけびの蔓は、一つかみの中に二、三本あっただけ。後はみんな雑草だったわけ。また、ある朝新聞配達に行ったらご主人が「家内が目が痛い

と転げ回っている」とのことと、すぐに民生委員さんに連絡して救急車で藤島医院に入院し、その日のうちに手術になり一晩付き添いに行った。ちよつと浦佐の白山神社の宵晩で民謡流しの夜だった。一晩中「目が痛い、目が痛い」と苦しんだ。翌日午前中にお花の生徒さんが付き添いを代わってくれた。何年かし



「川柳の会」が続くのもこの方のおかげ。絵手紙は玄人はだし。

て又日赤で目の手術をしたが、その時も一晩付き添った。緑内障だったので目では本当に苦しんだ人だった。

久枝さん自身は天涯孤独の人だった。

「私、肺癌なのよ。誰にもいわないでね」と言われて誰にも言わなかったのに、本人があちこち友人に言ったみたいで友人はみんな知っていた。年上の方がこんなことを言っただ変失

礼かと思うが、赤ちゃんがそのまま大人になったような純粋な人だったような気がした。ご主人ともいい出会いだったと思う。でも何となく生活の不安がいつも離れないような感じを受けていた。

しかし最終的には鈴懸に入る事が出来て、晩年は本当に幸せそうだった。そしてアツという間に逝ってしまった。苦しい中でも「延命治療はしないでね」と言いながら、仲良しの青木ヨシノさんの胸の中で、大好きな黒岩先生に看取ってもらって幸せだったんだなあと思っている。そこで私もそろそろ考えな

くちや」と思うようになった。いつか黒岩先生に「先生私の最期看取ってください」とお願いしたら、先生は「ああいいよ。それにしても僕と春代さんは同い年だから少し早めだね」「先生延命治療はしないでください」「春代さんそれは貴女が自分で書いておかないと駄目だよ」「分かりました」今はこんな会話が出来るいい世の中になった。私がそれを書いて丸三年が過ぎた。

楽しい行事あれこれ

「米寿を祝う会」



赤い頭巾にチャンチャンコ、花束抱いて嬉しそう。

一〇月五日（金）、ケアハウス鈴懸主催の「米寿を祝う会」が、食堂フロアーを使って行われました。

今年度、米寿を迎えられた方はなんと五名もいらつしやいました。入居者の六分の一です。紅白幕の前に赤いちゃんちゃんこ姿（ちゃんちゃんこが足りず、

急きよ、たもん荘さんからお借りしました。たもん荘さんありがとうございました）の五名がずらりと並び、祝い唄にカラオケにと華やかな会になりました。米寿を迎えられた方は、青木新二郎さん、井口ヒデノさん、関薫司さん、田辺キクイさん、上村キヌ子さんです。

海外出張の多い関薫司さんの息子さんが、「春の桃色、夏の緑、秋の黄色、赤、冬の白と、一年でこんなに四季折々の季節を楽しめるのは日本だけで、自然に恵まれた南魚沼の地だからこそ」と話してくれました。素敵な南魚沼の地で米寿を迎えた皆さん、おめでとうございます。関さんの挨拶の中でありました「函館の人」の歌のように、「すずかけの人」として、また揃って白寿（九九歳）のお祝いができるといいですね。



田辺キクイさんの夫、春一さん。郷土に伝わる昔からの祝い歌「松阪」を披露してくれました。

「ハロウィン」



関薫司さんの息子さんから感想を述べていただきました。



「ハッピーハロウィン!」「フーアーユー?」とご挨拶。どくろのお面は先生。

した。「ハッピーハロウィン」と「フーアーユー?（あなたは誰）」この二つの言葉を練習し、仮装した小学生をお出迎え。

- (小学生) ハッピーハロウィン!
- (入居者) ハッピーハロウィン!
- (小) トリック・ア・トゥーリット
- (入) 何だったっけな? えーと
- …フーアーユー?
- (小) アイアム ヴアンパイア!
- (入) ヴアンパイアって何だ?
- (小) 吸血鬼です。

英語と日本語が入り混じり楽しいハロウィンとなりました。「米寿を祝う会」「ハロウィン」とともに

ケアハウス鈴懸相談員

小林裕子

一〇月二九日（月）浦佐小学校六年生一人（一〇時〜）と五年生四三人（二〇時三〇分〜）が、恒例のハロウィンで来訪。入居者一二人が一階ホールで、学校が用意したお菓子を渡しま



6年生41人が、入居者の前でハロウィンの歌を合唱してくれました。

「紅葉狩り」



一〇月二十六日（金）「当間高原ベルナテイオ」へ紅葉狩りに出かけました。入居者十一人、職員四人で総勢十五人、いっぴなく大勢でした。紅葉には少し早かったのですが、高原にあるコスモス園では、コスモスの花が満開でとてもきれいでした。昼食は十日町市の「クロスー〇（テン）」内の「雪あかり」で豪華ランチ。また、行き帰りの車の中での話は大いに盛り上がり、楽しい一日を過ごすことができました。

（ケアハウス鈴懸 岡田としい）



当間高原にて。コスモス園を背に「ハイポーズ！」



コスモス園をバックに村山さん。すごくきれい！

「ホテルのコーヒーは高いもんだ。ウイナーコーヒーでば、何のことだかわかんかったて」

「今日のコースはとてもよかった。ステキなところへ連れて行ってもらって楽しかったわ！また行きたい。」

参加者の感想より

「紅葉にはちょっと早かったな。車の中の話が楽しかった」



上映会のお知らせ

「シェーナウの想い」

ドイツの小さな町シェーナウで、原発に頼らない電力会社を作るに至るドキュメント。

○日時 12月9日（日）19:00～20:30

○場所 コミュニティーホールさわらび

○チケット 300円（前売り・当日ともに）

お申し込みは、鈴懸まで。



ホテルの喫茶店で。ウイナーコーヒーってなんだ？

詩吟は、漢詩を吟ずることを言います。詩吟は、礼と節を重んずる日本の国技です。吟場には日本の国旗が掲げられ、舞台に立つとき国旗に礼、終わって帰るときも礼をして帰ります。

私が所属する詩吟の会は「神風流」といいます。流派の一番のトップを総元（家元）といいます。初代総元は新潟県小千谷市の出身です。

この方は体は大きいですが、子どもの頃、人に会うのがいやで人の前で唄を歌うこともできず、信濃川辺りで大きい声を出して練習していたそうです。私も唄が好きだったけど、総元と同じで人の前ではあまり歌いませんでした。

私が詩吟を始めたのは、十日町市に住んでいた昭和四六年六月からでした。私の家の前の方で、七〇歳の女の方が詩吟を習

入居者からの投稿

「私と詩吟について」
ケアハウス鈴懸入居者

鈴木スミ



つていて、その方から詩吟を聞かせていただいたのがきっかけでこの道に入りました。そのとき吟じてくれた題名が、乃木希典の「金州城」でした。それまで詩吟は男がするものだと思っていたのですが、女でもできるんだなど、私も意を強くしました。早速その女の人に「先生のところへ連れて行ってほしい」と頼み込んだのです。なんと先生の家は、私の家から歩いて五分くらいのところにある機屋の主人でした。

その後私も一生懸命練習に励み、総元代範の試験を受け、この資格をいただきました。この資格は総元と同じくらいだったので、代範の資格を取った年月の順で先輩・後輩にならざるを得なかったのです。ほんとうに厳しいものだと思ひ知らされました。

代範の資格を取ったあとも一生懸命勉強しました。春秋に毎年行われる、日比谷公会堂での神風流の全国大会には欠かさず聞きに行き、テープに取って勉強したものです。私も四回出場した経験を持っています。

今も神風流の総本部には、私の吟名「鈴木神鈴」とあり、これは私が死ぬまで掲げられています。

初代総元は一二〇歳まで生きると言いながら、胃がんで九二歳で亡くなり、今は甥が二代目となり吟道を継いで頑張っています。

私も声が続く限り、命がある限り吟じたいと、自分を鼓舞して頑張るつもりです。私が最初に聞き、最初に習った詩吟です。

金州城きんしゅうじょう (乃木希典)
山川草木さんせんそうもく 転荒涼うたたこうりょう
十里じゅうり 風腥かぜなまぐさ 新戰場しんせんじょう
征馬前せいばさ 人語ひとかた らずひと
金州きんしゅう 城外じやうがい 斜陽しやよう に立つ

(注・詩の意味)

金州城陥落後、乃木大将が第三軍を率いて旅順(りよじゆん)攻略に向かう途中、長男の戦死したまだ血腥(なまぐさ)い金州城を過ぐるに際し、無限の感慨にしばし進みかね、この詩を作られた。

※乃木希典：陸軍大将伯爵

明治天皇に殉死

桐鈴川柳



いやだども 雪囲いだけは

せにやならぬ

(愛妻家)

古い二人 白黒共に

ざる碁かな

(井上信吉)

秋まつり 細いすね出し

踊ってる

(鈴木スミ)

ストレッチ ポッコリお腹

へこまない

(桜梅桃李)

福祉の世 老人達の 天下なり

(わからんば)

秋海棠 母の思い出

あふれくる

(うらさめめよし)

新米を食べて田舎を 思い出す

(にゃんこ)

何も知らず 酒と女と 秋海棠

(井口末作)

※一月三、四日、第四〇回南魚沼市大和地域文化祭への出品作品です。

編集後記



「寒いね」と言えば「寒いね」と答える人のいるあたたかさ」この時季に思い出す、俵万智さんの短歌です。人の温もりって何かに代えられるものではないでしょうね。

さて、ヘルパーもこの時季何ものにも代えられない特権があります。車を運転しての訪問時、周囲の景色の移り変わりや、花の色の変化に楽しみ、心奪われる瞬間があるのです。

春秋は、移動が幸せのパノラマのようです。冬は当然、そんな訳にはいかず、こここで車を雪壁に突っ込み、側溝に落ち、車の修理費累計No.1を誇っている私です。でも誰かに救出されているので幸せなかも……

この間、朝夕通っているお宅の玄関で「ただいま」と言っに入ってしまい、利用者さんに「誰か帰ってきたかと思った」と笑われてしまいました。オレオレ詐欺以上のおとぼけ攻撃全開ですが、待っていてくださる方々に人の温もりを感じていただけなら嬉しい季節です

(佐藤雪江)